

佳作

## 生き物の大切さ

三光小学校 曾根原 裕美

私は、動物が大好きです。鳥やねこや犬、色々な動物が生きています。でも、そんなかわいい動物たちがほろびそうになっています。それはなぜでしょうか。

すべての生き物たちは食べる、食べられる、きょうぞんする、一緒につながって生きています。人間も植物もみんなそうです。でもそんな自然のバランスがくずれてきて、色々な生き物がほろびそうになっています。それがほろびぶ原因の一つです。

生き物が少なくなり、ほろんだりするげんいんはもう一つあります。それは、開発をして自然がなくなったり、生き物をつりや、かりなどでたくさんとってしまったり、人工林を放置したり、畑をたがやさないでそのままにしたりすること。他にも外来種をもちこんだり、地球温だんか、水のごれなどで生き物が少なくなっています。このことは全部私たち、人間がやっていることなのです。私たちが少しでも工夫をすれば、生き物のぜつめつが止まるかもしれません。もし生き物がぜつめつしたら…。

私は、魚が好きです。でもその魚がぜつめつしたら、水族館がなくなったり、魚が食べられなくなります。かつて

いるかわいい動物だって、ぜつめつしたらかえなくなってしまう。植物もそうです。植物がなくなったら、木がなくなるとさんそがなくなり、私たちは生きられなくなります。一つの生き物がぜつめつするだけで、私たちや他の動物が大変になります。

生き物がたがいに食べる、食べられるの関係は「食物れんさ」といいます。ある生き物がたくさんふえて、食べつくし、食物れんさがこわれ、その生き物もぜつめつします。そして、人間は食物れんさの頂点にいます。食物れんさの一番目は土です。そして土から植物が生まれ、その植物を虫たちが食べます。虫たちがかえるなどに食べられます。そしてかえるなどの生き物の次が魚、鳥、ぶたなどです。そして、食物れんさの頂点にいる人間がその生き物を食べるのです。

私たちのくらしは、色々な生き物にささえられています。りくや海の植物は、太陽から光と大気の二さん化したんそ、そしてきれいな水をもらって成長します。そして、さんそやきれいな水を作り、すべての生き物が生きる「きそ」を作っています。また、私たちが生きるために必要な薬、衣類の原材料になったりします。そして、海がんにある木はつなみをへらしたり、森林の木は台風のひがいをへらしたりして、さいがいをへらします。生き物があると、安心しますよね。楽しいし、かいてきです。生き物は、命の大切さを教えてくれます。